

# 2.研究マネジメント活動のひとつとしての ワークショップのデザイン -Day1-

慶應義塾大学大学院  
システムデザイン・マネジメント研究科

# 研究マネジメント活動のひとつとしてのワークショップのデザイン

# セッションの狙い

- 研究マネジメント活動において、**多様性の相互作用を活かすという観点**からイノベーション創出のアクティビティの1つとしてのワークショップの位置づけと目的を理解する。
- イノベーション創出のアクティビティにおいて、いつ、何のために、何を題材にワークショップを実施するかを考える重要性を理解する。
- ワorkshopを、段階的にデザインすることと、目的、デザイン、ファシリテーション、サポート、参加の視点から捉えるということを理解する。

# セッション後に期待すること

---

- ここでワークショップをやったら良いのかも、と適切なタイミングを認識しようとする意識が芽生える。
- ワークショップの目的やお題をこうしたらどうなるかな、ああしたらどうなっちゃうかな、とあれこれ考える意識が芽生える。
- プリ・ワークショップの重要性を認識する。

# セッションを踏まえて自分たちで出来る練習や訓練

---

- 通常の会議や議論などにおいて、擬似的に、ワークショップをやってみたら良いのではというタイミングを識別し、目的とお題の設定を検討してみる。
- その結果についてシミュレーションやディスカッションを行う。
- 所属組織特有のテーマで、同様の演習をすることにより理解を深める。

# セッションの内容一覧

---

- イノベーション創出アクティビティの1つとしてのワークショップのデザイン
- ワorkshopのデザインの詳細（イノベーション対話ツール）
- ワorkshopの「3つのフェーズ」（時間）
- ワorkshopの「3階層構造」（論理構造）
- ワorkshopの「4つの視点」（観点）

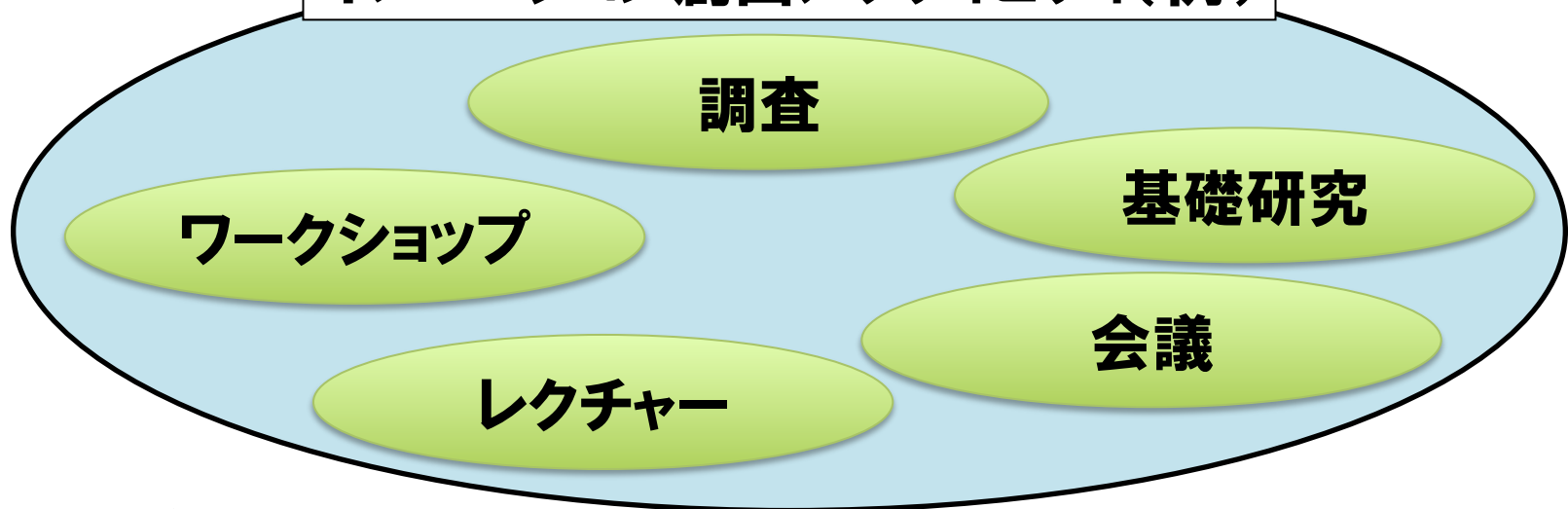
# イノベーション創出アクティビ ティの1つとしてのワークショップ のデザイン

# イノベーション創出のアクティビティ

P10第4.2章イノベーション創出アクティビティの1つとしての対話

- イノベーションを創出するためには多数のアクティビティが必要となる。
- 目的に合わせてアクティビティを組み合わせる設計力が求められる。

## イノベーション創出アクティビティ(例)



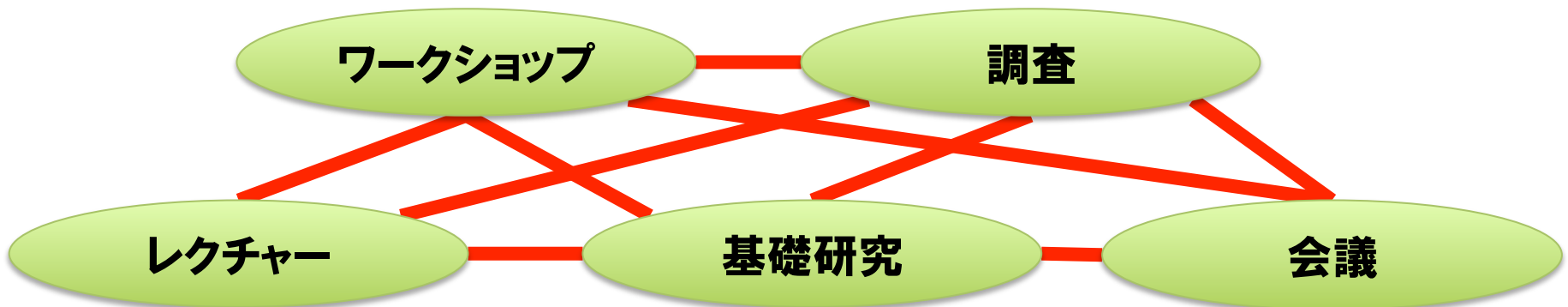


# 複数のアクティビティを組み合わせる

P10第4.2章イノベーション創出アクティビティの1つとしての対話

- ワークショップ形式単体でイノベーションが起ることは希である。
- 従来型の研究方法、会議なども必要である。
- また、個人で考える時間と集合知で創造する時間のバランスも重要である。

## イノベーション創出アクティビティの組み合わせ(例)



# イノベーション対話としてのワークショップ形式

P11第4.3章イノベーション創出のための対話としてのワークショップ

- 深掘りされた専門性の相互理解と共感を促進することで、既存の体系の枠外へと思考を広げることが必要。**単なる「対話」ではなく、「イノベーション創出のための対話」**であることが重要。
- その為の手法として**多様性の相互作用を特徴とするワークショップ形式**が有効。

# イノベーション対話としてのワークショップ形式

P11第4.3章イノベーション創出のための対話としてのワークショップ

「“ワークショップ”は上手く実施運営出来たが  
“イノベーション創出に向けた対話”には  
繋がらなかった…」

と大学等における担当者が肩を落とすケースは  
少なくない。

# イノベーション創出に向けた ワークショップデザイン

P11第4.3章イノベーション創出のための対話としてのワークショップ

- 目的（「イノベーション創出の為の対話」）に向かうワークショップは、目的に向かうデザインがある。
- 多様性を最大限に活かすデザインがある。
- 同じ「目的」「お題」から多様なワークショップのデザインがあり得る。

**「ワークショップ」を「デザイン」する。**

# イノベーション対話としてのワークショップに大切なこと

P11第4.3章イノベーション創出のための対話としてのワークショップ

- 参加者の**多様性を活かし、**
- **既存の枠に囚われない**思考で、
- これまでにない**イノベーティブなインサイト**  
(気づき、洞察)を得て、
- **次のイノベーション創出アクティビティ**  
**へとつなげる。**

# イノベーション対話としての ワークショップのポイント

---

- **目的を明確に**

- 具体的、詳細でなくてもよいので、**はっきり**させる
- ワークショップを**ただのイベント**にしない

- **アプローチを考える**

- 漠然と実施するのではなく、**振り返り、改善ができる**ようにする

- **実行を工夫する**

- 参加者、時間、場所などの**条件に合わせて様々な工夫、調整**をする

# ワークショップのデザインの詳細 (イノベーション対話ツール)

# 参考図書：イノベーション対話ツール

---

- 「イノベーション対話ツール」の関連部分を参照しながら、イノベーション創出のためのワークショップのデザインの詳細について理解する。
- イノベーション対話ツールについては次項にて紹介。



# H26年度 文部科学省 委託事業 「イノベーション対話ツール」

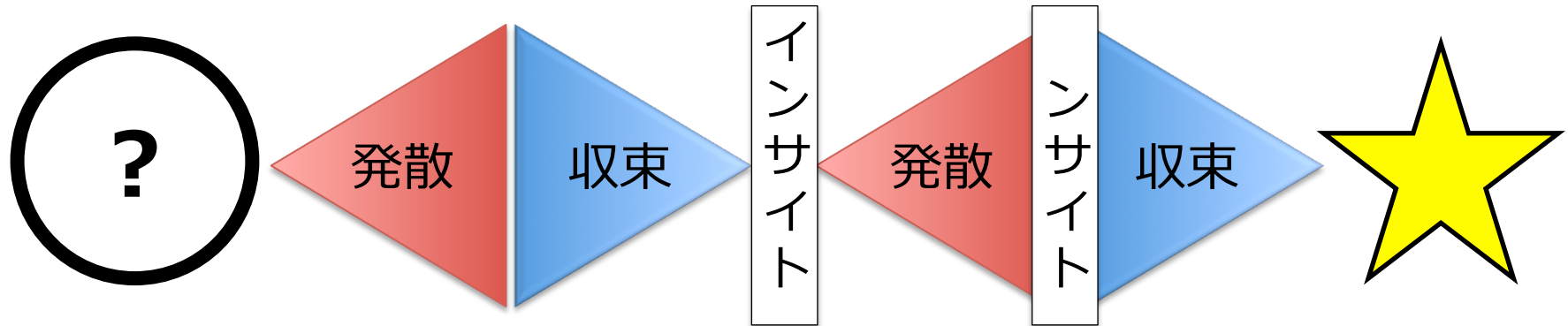
<文部科学省ホームページより引用>

産学連携による革新的なイノベーションの実現を目指す「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」事業の一環として、未来の社会像とこれに貢献する大学等の在り方について、大学等自らがデザインできるようにすることにより、多様な参加者の対話に基づき大学発のイノベーションを創出する確率を高めるため、ワークショップにおける具体的な対話の手法・手順(対話ツール)を平成25年度委託事業として開発したものです。

- H25年度文部科学省 委託事業「イノベーション対話ツールの開発」の成果物
- “イノベーション対話”としての“ワークショップ”の実施についての指南書
- 本教材の副読本
- [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/sangaku/1347910.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1347910.htm)

# イノベーション対話とは？

## イノベーション対話のイメージ



- 多様性を活かした**思考の発散**と**収束**を適切なタイミングで適切に組み合わせる。
- 多様性を活かすために参加者による**共感の醸成**、**相互理解の醸成**を図る。
- 多様性を活かして、**既存の思考に囚われない思考**をする。

# イノベーション対話ツールとは？

- 参加者の**多様性を活かし、**
- **既存の枠に囚われない思考で、**
- これまでにない**イノベータータイプなインサイト**（気づき、洞察）を得て、
- **次のイノベーション創出アクティビティへとつなげる**

これらのことを系統的に考えるための指南書



参加者の

# 多様性

を引き出す工夫



参加者が

# 集合知

を発揮する工夫